

ミツバ*1(野菜類、セリ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ベ ト 病	灰 色 か び 病	菌 核 病	立 枯 病	根 腐 病	ア ブ ラ ム シ 類	タ ネ バ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	キ ア ゲ ハ	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
アミスター20FL	Q o I	11		*g	1		◎										
モンカット水	アミド	7		30	1				水								
バリダシン液 5	抗生物質	U18		*e *f	3 1				◎ ◎								
ロブラール水	ジカルボキシミド*	2		*c *d	2 1				軟 軟								
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		*g	2			◎									
アリエッティ水	有機リン	P7		*g	2	◎											
リゾレックス水	有機リン	14		90 *j	2 1				◎ 水								
リゾレックス粉	有機リン	14		*a	1				◎								
ダコニール1000FL	他	M5		*b	3	◎											
タチガレン液	他	32		*g	1					◎							
ランマンFL	他	21		*h	2	◎											
スミブレンド水	ベンゾイミダゾール・ジカルボキシミド*	10・ 2		21	1		◎										
スピノエース顆水	スピノシン	5		*i	2									◎			
コロマイト乳	マクロライト*	6		*h	2											◎	
カスケード乳	I G R	15		*i	2									◎	◎	◎	
マトリックFL	I G R	18		*i	2									◎			
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B		*a	1												◎
アドマイヤー顆水	ネコチノイト*	4A	劇	*i	2						◎						
ダントツ溶	ネコチノイト*	4A			3	3					◎						
モスピラン顆溶	ネコチノイト*	4A	劇	*i	1						◎						
トレボン乳	ピレスロイト*	3A		*k	2						◎						
アフアーム乳	マクロライト*	6		*i	2									◎	◎	◎	◎
ダイアジノン粒 5	有機リン	1B		*a	1							◎					
ウララD F	他	29		*h	2						◎						
コテツFL	他	13	劇	*g	1										◎		

*1:ミツバ(みつば) …青みつば、切りみつば、根みつば

- *a: 播種前
 - *b: 根株養成期(但し収穫75日前まで)
 - *c: 根株養成期、地上部切り取り前(但し収穫35日前まで)
 - *d: 伏込時(但し収穫30日前まで)
 - *e: 移植後(但し収穫7日前まで、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで)
 - *f: 育苗期
 - *g: 収穫14日前まで(但し伏せ込み栽培は伏せ込み前まで)
 - *h: 収穫3日前まで(但し伏せ込み栽培は伏せ込み前まで)
 - *i: 収穫7日前まで(但し伏せ込み栽培は伏せ込み前まで)
 - *j: 育苗期(但し収穫40日前まで)
 - *k: 収穫21日前まで(但し伏せ込み栽培は伏せ込み前まで)
- 水: 水耕栽培 軟: 軟化栽培

ミツバ^{*1}（野菜類、セリ科葉菜類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	根株養成期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 1000倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍	
灰色かび病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル● 2000倍 スミブレンド水和剤● 2000倍	●耐性菌が生じる恐れがあるので連用しない。
立枯病	播種前	1. 連作を避け無病畑を選ぶ。 2. 発生圃場では次の薬剤を全面土壌混和する。 リゾレックス粉剤 20kg/10a	本病の病原菌はリゾクトニア菌であり、パセリ立枯病とは菌が異なる。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤を株元灌注する。 リゾレックス水和剤 500倍 0.5ℓ/m ²	
根腐病	播種前	・連作を避け無病畑を選ぶ。	本病はピシウム菌による。
	生育期	1. 発病株は早期に発見し、除去する。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 タチガレン液剤 2000倍	
菌核病	播種前	・連作を避け無病畑を選ぶ。	秋10～11月にかけて発生する。
	生育期	1. 発病株を早期に発見し、除去する。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 トップジンM水和剤 2000倍	
	軟化前	・根株を厳選し、無病株を軟化に用いる。	
てんぐ巣病（ヒメフタテンヨコバイ）	育苗期	1. 播種後は寒冷紗被覆を行う。 2. 被害株は早期に抜きとる。	病原はファイトプラズマで、ヒメフタテンヨコバイが伝搬する。 7月頃に被害株が多発する。
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 8000倍	
タネバエ	播種前	・播種前に次の薬剤を全面土壌混和する。 ダイアジノン粒剤5 6kg/10a	

*1:ミツバ（みつば）…青みつば、切りみつば、根みつば

ミツバ^{*1}（野菜類、セリ科葉菜類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ・ハスモンヨトウ・キアゲハ	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アファーム乳剤 2000倍	
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 2000倍 カスケード乳剤 2000倍 コロマイト乳剤 2000倍	
その他の病害虫		さび病、斑点病、変形菌病、モザイク病	

*1:ミツバ（みつば）…青みつば、切りみつば、根みつば